

各 位

会社名 株式会社 東京通信  
 代表者名 代表取締役社長CEO 古屋 佑樹  
 (コード番号：7359 東証グロース市場)  
 問合せ先 取締役 CFO 村野 慎之介  
 (TEL. 03-6452-4523)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月14日に公表した業績予想を修正いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

#### 1. 2022年12月期通期連結業績予想数値の修正 (2022年1月1日～2022年12月31日)

	売上高	EBITDA (※2)	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,900	790	470	450	230	45.57
今回修正予想(B)	5,300	396	10	10	△140	△28.35
増減額(B-A)	△600	△394	△460	△440	△370	
増減率(%)	△10.2	△49.9	△97.9	△97.8	△160.9	
(ご参考)前期実績 (2021年12月期)	4,731	707	465	424	202	40.99

※1. 2022年12月期第1四半期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用しております。

※2. EBITDA=営業利益+のれん償却費+減価償却費

#### 2. 修正の理由

当社グループは第二創業期を迎え、2月に成長戦略を策定し、世界を代表するデジタルビジネス・コングロマリットになることを目指しております。その成長ストーリーの実現に向け、新たな収益源の確立を目指し、成長投資の拡大を見据え、当初想定していた新規事業を中心とした先行投資の前倒しと、分散したオフィス環境の統合による中長期にわたる経営の効率化を目指した本社移転をすることといたしました。

これに伴い、先行投資に関わる影響、本社移転に関わる影響(120百万円を売上原価、販売費及び一般管理費に配分)及び直近の業績動向を踏まえ、業績予想を修正いたしました。2022年12月期において一時的な費

用の拡大を見込んでおりますが、中長期の成長を視野に入れて事業成長に取り組んでまいります。

インターネットメディア事業においては、2020 年末に世界的なヒットを記録したハイパーカジュアルゲームアプリ「Save them all」に続く、ヒット作を創出できていない等の業績動向の影響（売上高△304 百万円、セグメント利益△128 百万円）に加え、東アジアへのアプリ提供の本格化、Play to Earn 領域のインセンティブゲーム、自社コンテンツの家庭用ゲーム機等のプラットフォームへ展開、EC サイトでの音声コンテンツ販売、教育関連アプリの開発等の新規領域への挑戦を目的とした追加開発を先行投資に関わる影響（セグメント利益△105 百万円）として見込んでおります。

プラットフォーム事業においては電話占い「カリス」のノウハウを活用して恋愛相談サービスのリリースを計画しておりますが、本サービスの成功確率を上げることを狙い、協業予定のパートナーとリリース計画の再構築を行ったこととクオリティ追及を目的とした開発期間の延長に伴う業績動向の影響（売上高△54 百万円、セグメント利益△5 百万円）及び先行投資に関わる影響（セグメント利益△14 百万円）を見込んでおります。

インターネット広告事業においては、SEO 関連サービスの計画を再調整し、それに伴う業績動向の影響（売上高△162 百万円、セグメント利益△31 百万円）を見込んでおります。

その他セグメントにおいては、4月に開始したヘルステックサービス「OWN.」について、App Store の無料ヘルスケア・フィットネスのカテゴリでランキング1位、トップセールスのヘルスケア・フィットネスのカテゴリでランキング3位を獲得し、順調なスタートを切りましたが、お客様により良いサービスを提供するために、協業するインフルエンサーと告知スケジュールの調整を行ったことによる業績動向の影響（売上高△80 百万円、セグメント利益△17 百万円）を見込んでおります。また、「OWN.」の更なる成長に向け、機能改善のための追加開発を先行投資に関わる影響（セグメント利益△40 百万円）として見込んでおります。これらに加え、メタバース事業、デジタルサイネージ事業、その他新規事業に関しても、より成長を加速させるための開発体制の強化を計画しており、来期以降の飛躍的な業績拡大に繋げてまいります。

以上を踏まえ、売上高 5,300 百万円（前回発表予想 5,900 百万円）、EBITDA 396 百万円（前回発表予想 790 百万円）、営業利益 10 百万円（前回発表予想 470 百万円）、経常利益 10 百万円（前回発表予想 450 百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失 140 百万円（前回発表予想 当期純利益 230 百万円）に通期連結業績予想を修正いたします。

3. 2022年12月期通期セグメント別業績予想数値の修正（2022年1月1日～2022年12月31日）

（単位：百万円）

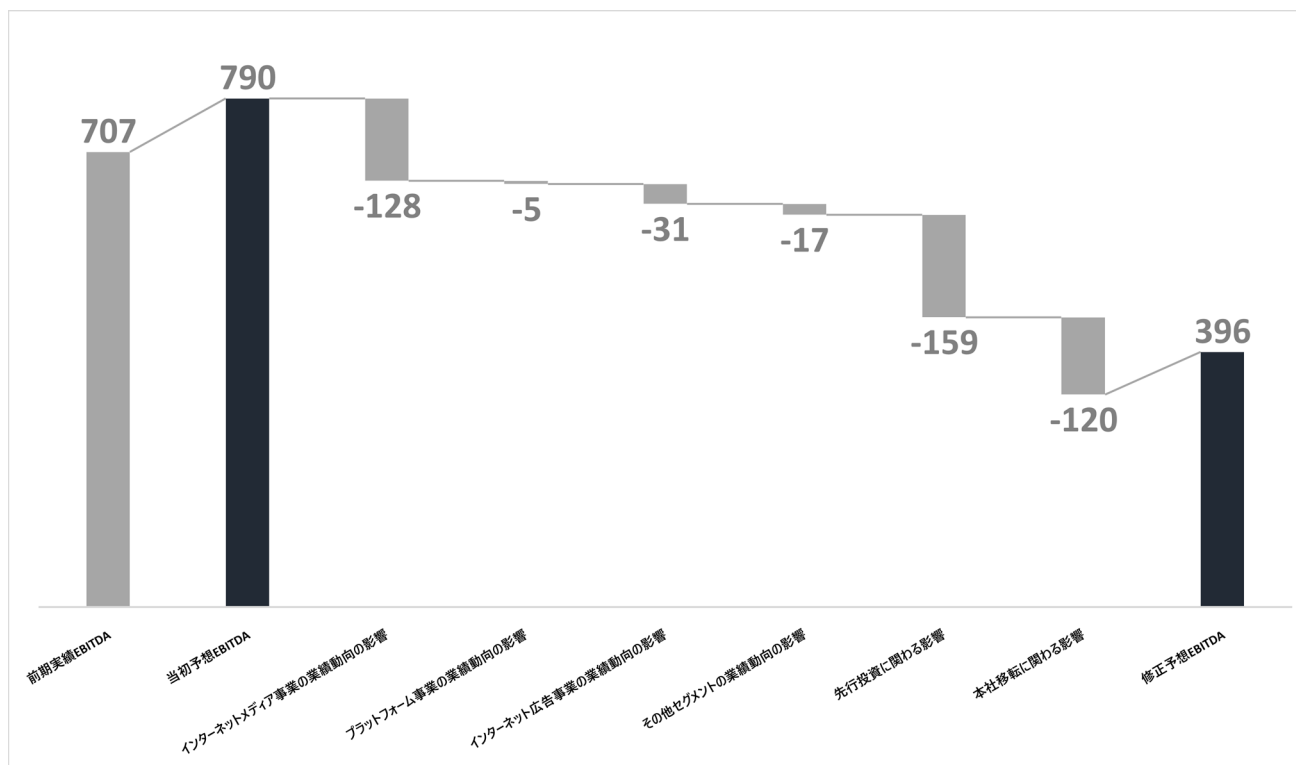
		合計	インター ネットメ ディア事 業※2	プラット フォーム 事業※2	インタ ーネッ ト広告 事業	その他 セグメ ント	全社 共通
前回 予想	売上高（A）	5,900	3,544	1,782	406	168	-
	セグメント利益（B）		698	250	13	△87	-
今回 予想	売上高（C）	5,300	3,240	1,728	244	88	-
	増減額（C-A）	△600	△304	△54	△162	△80	-
	セグメント利益（D）		432	216	△18	△144	-
	増減額（D-B）		△266	△34	△31	△57	△72
	業績動向の影響	△181	△128	△5	△31	△17	-
	先行投資に関わる影響	△159	△105	△14	-	△40	-
	本社移転に関わる影響	△120	△33	△15	-	-	△72

※1. 上記の数値については、単位未満を切り捨てて記載しており、セグメント各数値の和と合計値が合わない場合があります。

※2. インターネットメディア事業及びプラットフォーム事業のKPIの修正は行いません。

4. 業績予想の修正に伴う予想EBITDAの変動（2022年1月1日～2022年12月31日）

（単位：百万円）



※修正予想EBITDAには本社移転関連の減価償却費を加えております。

上記見通しは、現時点で入手可能な情報に基づいて作成をしたものであり、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染症による影響については、業績に与える影響は軽微であると判断しております。今後も業績に与える影響を注視し、修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

以上